

研究タイトル「宝飾(指輪・ペンダントの制作)」
Jewelry production (rings and pendants)

山梨県立甲府工業高等学校 機械科3年 宝飾製作グループ
 井口瑠菜 石黒輝 遠藤大成 乙黒泰輝 數野蓮華 坂本弘輝 竜澤啓輔 矢崎健太郎 山田悠月
 新井ありさ 石原脩太 駒井鈴音 近藤英斗 塩入壮馬 竹内侑大 鶴田僚 羽田丈士

1. 研究概要・目的

In making jewelry, we try to work by hand so we can obtain a wide variety of techniques by emphasizing hand-crafted work rather than mechanical work. This includes the process of designing through to completing the works.
 宝飾では、「手作りの作品」を目指しています。デザインを描くことから作品の完成まで機械的作業よりも手仕上げ作業を重視することにより、多種多様の技術を習得することになります。

2. 研究内容

- (1)宝飾に対する理解を深めるためビデオ鑑賞。
- (2)図書館の宝飾に関する本を読み、デザインを考え、製図する。
- (3)製図を参考にワックス(下図参照)を削る。
- (4)大まかに形どり、目の大きなヤスリで削る。
- (5)形状が整ったらヤスリの目を小さくし、細部を削つていき細かな傷を取っていく。
- (6)完成したワックスを鋳造(キャスト)する。
- (7)キャストした作品(シルバー925※)をリューター※等で研磨する。
 ※シルバー925とは純銀925%と銅75%の合金
 ※リューターとは手持ちの電動切削工具
- (8)磨いた作品が硫化して黒くなるのを防ぐためにメッキをかける。

3. 取組状況

様々な作品を参考に、各自アイデアを考えてデザインすることができた。
 デザインを元にワックスを切削して原型を完成することができた。
 鋳造後のシルバーを研磨し、アクセサリーとして完成させることができた。



デザイン考案中



ワックス切削

4. 成果

リングとペンダントを完成させて、思った以上の仕上がりを実感できた。
 デザインをすることによって、自分のアイデアなどを深めることができた。
 着用性とファッション性の兼ね合いをイメージしてデザインを考えることの難しさを知ることができた。



作業風景

5. 考察

宝飾の一連の作業を体験したことにより、発想力と実用性を理解できた。
 完成するために紙やすりやリューターを使うことによって、丁寧で細かい作業の大切さを経験することができた。



ワックス原型



完成したリング

6. おわりに

研究にあたり、松本先生、中沢先生、藤原先生にご協力いただき、無事に指輪とペンダントを完成させることができました。
 課題研究を通じて、目的を達成できるように一生懸命だったので、この経験を今後の自分の人生に生かしていきたいです。

